

令和6年度

教育基本方針

学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

1 本年度の基本方針

本校の各部署においては、本年度、下記の事項に留意し、安定した学校基盤を構築し、円滑な学校運営を推進する。

(1) 教務室

- (ア) 学校施設の適切な維持管理と施設状況の把握を行い、計画的な改修及び保全を実施し、快適な学習環境の提供と学校施設の長寿命化を推進する。
- (イ) 光熱費や備品等の価格高騰に伴い、適正な学費（授業料、施設費等）の見直しを検討する。
- (ウ) 高等教育修学支援制度及び日本学生支援機構奨学金の学生への周知徹底と適切な処理を行うとともに、学費未納者及び学費滞納者に対する学則に則した対処の厳格化と徴収に努める。
- (エ) 固定資産の管理のルールに則った適切な処理と管理の合理化に努める。
- (オ) 個人情報に関する書類等の管理・取り扱いの徹底を図る。
- (カ) 高大接続改革に関する情報を収集し、建築系と連携して対応策を検討する。

(2) 建築系

- (ア) 教員業務の合理化を図り、教育内容及び教育環境を改善する。
- (イ) 実践的な能力を備えた人材を育成するため、教員自らが業界を理解する機会を多く持ち、授業内容に反映させる。
- (ウ) 職員は自己研鑽に努め、学生の多様性と個性を尊重した、成果の挙がる教育方法と学級運営方法を習得し、その力を向上させる。
- (エ) 学生の課題提出遅延の削減を目的としたカリキュラムとシラバスの見直しを行い、授業の理解度・満足度並びに質の向上を図る。
- (オ) 一級建築士・二級建築士試験合格を支援するための取り組みや支援方法を見直し、合格率の向上を図る。

(3) 国際系

- (ア) 特色ある授業を行い、卒業後の進路に繋げ、留学生や日本語教育機関からの信頼を深めることで持続的な定員充足を図る。
- (イ) 業務に対する共通目標と協働体制の意識を堅持し、業務の質的向上を促進させ、計画的かつ円滑な運営を目指す。
- (ウ) 就職を目指す日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科（令和6年度からブリッジエンジニア科に科名変更）においては、社会や企業のニーズに即した人材育成を推進する。

- (エ) 日本語能力試験のほか、大学進学希望の留学生には日本留学試験、就職希望の留学生にはビジネス日本語能力検定等の受験を推奨し、進路の選択幅を広げる。
- (オ) 留学生を取り巻く社会情勢の変化を注視し、柔軟かつ継続的な運営を目指す。

2 本年度の留意事項

(1) 学校運営

(ア) 学校経営の健全化の促進

(a) 学生数の増加の促進

18歳人口が2018（平成30）年度から急減期に入り、近隣の大学における建築系の学部・学科の新設・増設等により、本校の学生募集は極めて厳しい状況にある。

学生数の減少は、学校の存続にかかわる問題であり、卒業生や関係企業にとっても影響が大きいことを全員が認識しなければならない。

そのような中、「資料請求数」「イベント参加者数」「出願数」「入学者数」の歩留り率を上げ、全教職員の意思統一のもと、広報業務の体制づくりを築き上げるようにする。

また、本校のストロングポイントを紙・ネット媒体はもとより、各種SNSを活用し、年間を通してリレーション活動を行い、入学者の早期獲得・増加につながるようにする。

(b) 休学・退学防止策の検討

非常勤講師も含めた教員が、入学前の状況や、募集時の情報開示内容などを理解し、入学後に本人が感じるギャップ（失望）を軽減することに努力する。

コロナ禍を機に、入学前の事前学習教材の配布を行っているが、学生の心構えが以前より良くなっているとともに、教員側が学生の能力等を早期に把握することができるという利点があり、様々なサインとして活用できているため、今年度は退学防止も意識し、改善を加えていく。

学校生活の充実や仲間づくりを促すための、オリエンテーションやガイダンス、ASH、校外学習等を企画しているが、学生が、達成感や成長を実感できるものになるよう授業やカリキュラムとの連携を踏まえ、毎年見直し、精査を行い、継続する。

また、退学の要因は様々であるが、学生面談に費やすことができる時間は限られているため、短時間で学生の抱える問題にアプローチし、解決に導く職員の対

応力を向上させる必要がある。教員個々の能力に頼らず、学生個人の問題にせず、具体策を試行錯誤し、改善のための仕組みを作る必要がある。

気になる学生については、担任一人で抱え込まず、相談しやすい組織づくりに努め、インフォクリッパーによる個別面談内容の記録を活用し、連携して対処することで、退学に至る問題の発生を未然に防ぐことを図る。

さらに、学生の出席率の向上が退学防止に直結することは間違いないので、教員の学級運営スキル向上と全職員の明るく温かい対話、挨拶等によって、全学生が90%以上の出席率となるよう努力する。

(c) 国際系の安定した運営・経営方向の検討

コロナ以降、来日留学生の国籍が大きく変わり、全体的な日本語レベルの低下が懸念されたが、留学目的が明確で志の高い学生を選考することで、入学後の途中休退学はほぼなく、出席率も90%を下回る学生はいなかった。

毎年出願者の多くが在校生や卒業生の紹介であることから、学校に対する学生の満足度と信頼度を実感できている。今後もこの流れを継続できるよう学生ファーストの姿勢で務めたい。

(d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系においては、建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目標にしているが、今年度は内部進学者が非常に少なかったため、在校生への働きかけを強化していく必要がある。そのために、1、2年生に向けて、研究科の存在感と魅力を校内で発信できるよう努める。令和5年度は、卒業成果の発表に、工夫を加え、内部進学 of 動機付けとなるよう、研究科の学生の充実した様子を、興味深く見えるように指導したところ、反応が向上したと感じたので、研究科の学生が在校生に直接アピールする機会を増やしていきたい。

また、2月末に、二級建築士学科模擬試験を、毎年校内で実施しており、1年生にも受験を促しているが、現在まで、参加者が少ないので増加を図り、資格取得意識を高めるよう工夫する。

さらに、資格取得のための学習の方法を身に付け、成功した経験を積むことも重要であるため、二級建築士以外の資格も確実に取得できるよう、スケジュールの見直しを行い合格率という魅力の向上に努める。

加えて、建築物をつくるための、実務的知識、技術だけでも非常に量が増加しているなか、昨今では、今ある建築物の継続的な活用や評価、建築物を取り巻く環境やコミュニティ形成と言った新たな課題解決などについても学ぶ必要が生じている。

2年間という期間は十分な時間ではない点を理解させ、研究科で学び、幅広く活躍したいという意欲の向上を促したい。

国際系においては、次年度、国際コミュニケーション科からブリッジエンジニア科へ内部進学を希望する者が一定数いる。今後もブリッジエンジニア科出願を希望する日本語力の足りない学生に「3年制」という選択肢を提案することで、より早い時期に次年度のブリッジエンジニア科の定員の一部を確保できるよう計画的な募集方法を構築していく。

(e) 合理的な広報活動の方策の確立

建築系においては、オープンキャンパス等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンス・出前授業の参加等について、学内情報管理システムを活用し、昨年度の実績数値の把握ときめ細かい検証を行い、効果的な広報活動の展開に努める。

オープンキャンパスではわかりやすく、魅力的に教育内容をアピールするための見直しを常に行い、よう工夫する。

建築系留学生の広報活動を国際系と集約し、参加者にとって入学の決め手となるホームページや募集要項オープンキャンパスにて配布する資料、説明内容等に不整合がなく、ビジュアル的な統一感に留意する

国際系においては、職員不足によりこれまでのような学校訪問が難しい状況にある。一方で、年々在校生や卒業生からの紹介での出願が増えていることから、これまで以上に手厚いサポート、進路指導、他校にない課外授業の充実などで学生の満足度を上げることで紹介による出願がより増えるよう努める。

(f) 適正な学費の見直し

光熱費や様々な備品の価格高騰をはじめ、人件費や委託管理費等の高騰に伴い、適正な学費（授業料、施設費等）の見直しを検討する。

(イ) 特色ある学校づくりの推進

(a) 環境教育の促進

SDGs や省エネ基準適合義務の対象拡大等があり、一級建築士試験における環境工学、建築設備計画の分野の知識とその応用力の要求が強化されているが、この分野は難解な内容も多く、授業は難航しやすいので、専門の非常勤講師と専任職員が連携して学びやすい授業をデザインしていくことに努める。

(b) BIM教育の推進

建築学科においては、BIMソフトの基本操作を確実に習得するという目標を継続

して掲げ、全体の質向上に努める。また、実務に即したB I Mなど先端技術の利活用のための授業を試験的に研究科の後期授業に組み込み、指導内容を発展させていく。

さらに、新たに設けられたB I M検定試験の受験指導体制を模索し、資格取得も目指す。

(c) 資格取得の推進

建築系においては、資格取得率の改善を図るために、資格対策授業のスケジュールの見直しを行い、学生の集中力の継続と意識向上を図る。

また、学生のレベルや、他の課題との兼ね合いを見据え、結果の出る資格を一人一人が得意なことや興味のあることに基づいて選択できるシステムをあらたに構築していく。

国際系においては、日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、情報処理検定等の就職に有利となる資格取得を推奨する。

(d) 人間涵養教育の推進

今年度は、ほぼすべての行事をコロナ禍以前の形式に戻していくことが可能となるが、新たに導入したオンラインを活用したスタイルや手法なども適宜取り入れ、より多くの学生の人間としての成長につながるコミュニケーション、目標設定、将来設計のためのチャレンジ等を職員が支援しやすい環境の充実を目指す。また、その核である新入生オリエンテーションとしての軽井沢研修は、昨年度同様2泊3日の日程とし、コロナ禍前より1日の短縮となっている。これについては、コロナ禍で確立された、事前研修やフォローアップ研修などにより、最近の学生にとって、負担が少なく、効果的なあり方であると同時に、職員の負担も軽減し、その間の2年生への指導も手薄にならないなど、改善がみられるので、今後は2泊3日の研修内容のさらなる充実を目指す。

国際系においては、「自主、自覚、自律」を基本方針とした教育を推進し、日本社会で生き抜ける自立した人材の育成に努める。

(e) 建築士試験の受験要件緩和への対応

2022（令和4）年度、1名が一級、二級同時受験・同時合格を達成したことを受け、昨年度も一級、二級同時受験者がいたが、学科合格を果たすことができなかった。今年度も一級、二級同時受験にチャレンジする予定の学生が入学するので、同様の支援を実施し、指導体制のありかたを再検討する。

また、二級建築士を確実に取得した上、一級建築士の受験準備の支援への要望もあるため、一級建築士受験支援体制を後期カリキュラムに加えることも継続して検討す

る。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

(ウ) 業務の効率の向上

(a) 業務の合理化

人員不足（担任不足）問題の早期解決は非常に難しいため、業務の合理化は喫緊の課題である。今年度は、職員一人ひとりの能力を最大限活かすことで、不合理を発見し改善していくことを目指す。

そのため、職員が、業務一つひとつに意義と価値を理解して取り組み、柔軟な役割分担と信頼関係をもとに、各々が判断して、正しく迅速に行動できることを意識し、努力を継続する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

業務内容の点検・見直しのため、過去の慣例にとらわれず、教職員が意見交換しやすい環境づくりを心掛け、困っていることの解決に向けた新たなアイデアの試行などは積極的に実行できる体制をつくる。

(c) 学内情報管理システムの活用

学内情報管理システムにおいて、学籍管理や成績管理だけでなく、同システムで出欠確認の電子化を行い、不要な業務の見直しや文書の簡素化を図り、昨年度はさらなる改善や調整を行った。その結果、同システムの限界や課題も見えてきたので、今後について再検討を行う。また、学生本人が出席状況を確認できる機能を付加するか否かについても検討する。

(d) Google for Education の活用

Google for Education を本格的に導入、活用した結果、各授業における配布物、提出物をデータ上で管理できるため、欠席者への配布漏れ、回収漏れも軽減され、非常勤講師が自宅でも作品を確認できるので、採点もスムーズにできている上、提出遅延者の管理等、担任の業務も軽減された。さらに活用度を高めて授業の質向上につなげていく。

(e) 職員間の相互扶助の促進

職員同士の対話を大切にし、業務の背景や展望に対する相互理解に努める。特に各部署のマネジメントにおいては連絡と報告だけではなく、ボトムアップによる合意形成を目的とする会議をできるだけ設け、当事者意識と相互理解を深めることで相互扶助を促進する。

また、建築系教員室と進路・広報室とを隣接させ、入学から教育、卒業まで一貫した職員間の一体感を今まで以上に構築する。

(エ) 職場環境の改善

(a) 挨拶の励行

職員間ではもとより、全職員によるすべての学生への挨拶を徹底する。また、来客等への挨拶、声掛けを励行し、明るい学校及び職場づくりに心掛ける。良好なコミュニケーションは「笑顔で挨拶」からであることを意識する。

(b) マナーの向上

職員としての服装や言葉遣い等に留意し、誰に対しても敬意を持って丁寧に接する。特に、学生への発言に対しては、非常勤講師と連携しながら、現代の価値観、規範に十分留意することとする。また、その内容については、常に情報収集に努め、積極的な注意喚起を行う。

また、手紙、電話、FAX、メール、SNS等、様々なコミュニケーションの方法があるが、それらを使用する際の言葉遣い等にも留意するとともに、学生にも適切な指導を行う。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

良質な学習環境を維持するとともに、オープンキャンパスや貸会場等で本校学生以外も校舎を利用するため、日頃から校舎・教室の物品等の整理・整頓や美化を心掛け、良質な学習環境であることに努める。

また、教室には返却済みの作品や、配布プリント等が放置されていることが多々ある。学生ポータルを使って学生に周知することが定着してきたため、オンライン上で伝達できることは極力紙配布をなくし、作品返却については、仮置き期間を設定する等して、定期的に教室がリセットされるようにする。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品の展示をはじめ、資格の合格者、コンペの結果等をできるだけ早く掲示・公表し、祝賀ムードを盛り上げる工夫をする。建築系及び国際系の特徴・学校らしさや心andraげる雰囲気醸成する。展示物の傷みや汚れについてのメンテナンスにも気を配る。

(e) 職員間の情報の共有

2 本年度の留意事項にある(1)(ウ)職員間の相互扶助の促進を実践した上で、部署ごとのミーティングを定期的で開催し、(1)(ア)(b)休学・退学防止策の検討

を意識し、学生・留学生の情報や職員が個別に抱える課題等の共有を図り、風通しのよい職場環境を整えるようにする。

また、互いに謙虚な気持ちや学び合う姿勢、相互扶助の精神を持つとともに、全員が専門性を常に高める努力を怠ることなく、誰もが人材の育成を担う意識を持つ。

(f) 設備や備品の管理と整備

授業等で使用するノートパソコンやプロジェクター等の機器や備品の適切な管理と定期的な整備を行い、学習環境を継続的に整える。

(オ) 附帯教育事業の充実化

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラムとして、業界の情報や知見が集積している本校の強みを活かした、業界向けのセミナー等を開発する。

将来は、業界の情報や研修の拠点として、広く活用してもらえることを目指す。

(c) 中央工学校生涯学習室等との連携強化

中央工学校生涯学習室等と連携し、新しい講座を開拓する。

(d) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

(e) (学) 中央工学校OSAKA一級建築士事務所の目的

引き続き、建築設計に関する幅広い知見を有している本校が設計事務所として実務に携わることの意義を意識し、社会に貢献できる設計事務所となることを目指す。

昨年度は物件がなく、業務がほぼ発生しなかったが、事務所に義務付けられている定期講習の受講は、教員の実務的な知識の更新に欠かせないものとなっている。

(カ) 非常勤講師との連携の促進

(a) 情報の共有化

クラウド型学内情報管理システムの導入をさらに発展させ、益々の充実を図る。

また、学生の出席管理システムにおいて、出欠閲覧を担当講師からの要望があれば、担任、または担当が一覧表を出力する方法で対応しているが、従前の出席簿と違い、問題が発見しにくい点の解決策は見いだせておらず、今後も検討する。

(b) 学校行事への参加の促進

卒業成果・制作発表会等の学校行事について、昨年度は、概ねコロナ禍以前の状態での実施となったが、特に卒業成果・制作発表会は、席数の問題で、1年生、卒制担当講師しか会場での見学ができなかったが、会場全体が盛り上がり、1年生の反応は大変よかったので、2年生やほかの講師も会場での見学ができることが望ましいと感じている。それにより、非常勤講師にとっても実感を得やすい行事になると考える。しかし、今年度は同様の形式とならざるを得ないが、次年度は大型の会場での実施を検討したい。

また、『生きた建築ミュージアムフェスティバル』は、社会現象としての建築ツーリズムの盛況を好機として、多くの公開建築物を実際に体験することや本校の校舎について深く知ること等によって、建築物の評価基準や街と建築の関係等、これからの建築業界に求められる感性を磨く非常に重要な機会である。しかし、文化的な行事は、主旨の理解、行事後の自己の成長の自覚がなければならぬため、事前と事後を大切に、多くの学生の意識を高めていくことに非常勤講師の協力を仰ぎ、学校として盛り上げる姿勢を共有していただくことを目指す。

また、大規模な作品展覧会を行っていないので、実施の可能性を探り、行事として形にしていくことも非常勤講師の関心や理解の向上につながる。

その他、スポーツ大会は、学生レクリエーションではあるが、体を動かして発散すること、仲間と楽しむことの輪に入ることで、学生との距離を縮め、良好な関係を築くきっかけにできるようにしたい。

(c) 意見交換会の開催

職員と非常勤講師の意見交換会を適宜開催し、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等を改善する。活発な意見交換会のために、非常勤講師と職員は、日常的に本音を言い易い関係性を築くことに留意した結果、コミュニケーションの量、質共に向上が感じられる。しかし、意見交換会としては、十分に開催できなかったため、形式や時期などを工夫して、活発化に努める。

(d) 学科内方針の共有

引き続き、学科内で授業の到達目標を具体的に設定し、科目ごとの連携・引き継ぎは、担任がコントロールしていく。さらに、学生への指導方針を定め、職員と非常勤職員の間で共有し、スムーズな対応が行えるようにする。

また、非常勤講師間で意見や考え方に相違があっても担任、学科長で明確な方針を示していく。

(キ) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進

(a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

建築系では企業等と連携したプロジェクトや授業を実施しているが、業界の変化に即した専門性の充実化及び高度化が図れるよう、新たな企業と連携した実習や演習の内容の検討を行う。

(b) 企業等と連携した職員研修の実施

教員の指導力向上を図るため、授業のファシリテーション技術習得のための研修や専門分野における中・長期の研修について検討する。

また、関係専門分野の企業等と連携した見学を中心とした研修を継続して行っていく。

(c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、授業内容やカリキュラムの見直しを行うとともに、社会のニーズに即した教育や教員の資質向上にも役立てる。

(d) 学校関係者評価書の作成・公開

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行っており、学校関係者評価書をホームページで公開している。

また、学校関係者評価の作成・公開は、令和2年度から実施された「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」（高等教育の無償化）の機関要件の一つでもある。

これらのことを踏まえ、学校関係者評価書の作成を通じて問題点や課題を抽出し、学校運営の改善と発展を目指すとともに、公開によって学校への理解を一層得られるようにする。

(ク) 建築系の取り組み

(a) 学生指導

多様な個性や要望を持ち入学してくる学生を、新しい社会で活躍できる人として育てるため、知識、技術だけではなく、豊かな創造性や新しいことに挑戦する勇気と自信を持たせることを意識し、教員が従来の常識を見直し、学生の強みを強化する指導を心がける。

研修や、校外学習などを効果的に実施し、実施後のフィードバックや成果の検証も行う。

行事などを通して、運営や組織づくりを、仲間と実体験し成長を促す指導に力を入れる。

(b) 授業内容と、授業構成を意識した授業デザイン

アルバイトなどにより、学生は自宅学習習慣があまりなく、授業間の関連性や連続

性も意識せず授業を受けていることも多いため、内容の理解が深まりにくい傾向にある。また、理解を助け、深めるためには、視覚的な教材や、体験、ディスカッションなどがなければならないという状況が顕著になっている。

そのため、担任は、初回授業ではイントロダクションを挿入し、日々のナビゲーションが重要となっている。

以上を意識しながら、90分の授業時間中をどう使い、注意を引き付け続けるかも計画して授業に臨む必要がある。科目や教員によるばらつきをできる限り軽減するために、教職員間で配布プリントや、進捗、成果物の共有などをさらに密に行い、定期的に、気軽にミーティングを行い、フォロー体制の強化に努めることで、学生の学びを効率的により深いものにしていく。

(ケ) 国際系の取り組み

(a) 入学者数の安定的確保

将来の目標が明確で、出席率、経費支弁状況がしっかりしている留学生を確保する。

(b) 各学科の特色の鮮明化

国際コミュニケーション科においては、内部進学、外部進学、就職の3つの進路に対応し、学生を希望する進路へと導く。少人数制という利点を生かし、進学希望者には希望校の小論文や面接指導を過去の入試データをもとに分析し、対策を行う。就職希望者には「技人国」「特定技能」のどちらの就職でもきめ細かくサポートし、一人ひとりが目標に到達できるよう支援を行う。

日越通訳・翻訳科においては、就職後を見据え、より実践的な内容を題材にした通訳・翻訳の授業を実施する。また、インターンシップを通じ、現場での対応力やマネージメント力、リーダーシップ、状況判断力が身につくようにする。

ブリッジ（システム）エンジニア科では、就職先となる企業のニーズを踏まえたカリキュラムによる実践的な教育を展開し、様々な業種でのインターンシップを通じ、本科の3つの学び「建築」・「製造」・「プログラミング」の中から自分に合う分野を発見させ、就職後のミスマッチが起きないようにする。

両科とも1年次より、授業内で企業招集、会社説明会等を行い、早期にインターンシップ参加を促し、就職活動への意識形成を行う。

(c) 実践的日本語力の取得の強化

日本語能力試験の対策とともに、ビジネス日本語やプレゼン力を身につけ、日本語の運用力を高める。また、専門科目での理解不足がおきないように、専門用語の日本語フォローに入る。

(2) 学習指導

(ア) 重点事項

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

軽井沢合宿研修においては、新入生オリエンテーションとして、学生生活のスタートにあたって様々な意識付けができる形が確立しつつある。今年度は、最終的な効果の検証を行った上、引率者の業務と運営の合理化を進める。

また、卒業成果・制作発表会については、コンクールにおける審査基準を現代の建築の評価基準を踏まえて見直し、より実社会に役立つ建築、インテリアの提案を求める姿勢を強めていきたい。

国際系においては、学校とアルバイトの往復だけになりがちな留学生に、さまざまな体験を授業内で経験できるように、課外活動や校外学習を取り入れる。それらの活動を通して団体行動の大切さやクラスの団結力を培い、異文化への興味、社会への関心が広がるよう、また2年間という限られた学生生活の中で友人との思い出作りの場となるような機会を提供する。

(b) 学生ラウンジの活用

学生ラウンジを学生・留学生や職員の食事のほか、学生・留学生間及び学生・留学生・職員・非常勤講師間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、引き続き、国内建築研修において、中央工学校の充実した新校舎設備を使った授業の実施を検討する。また、昨年度は、初めて新入生の軽井沢研修において東京校を訪問することにしたが、学生の反応もよかったため、できる限り継続したいが、人数が多くなると難しいため、他の形で学生全員が東京校を訪問できるような研修等を模索する。

また、二級建築士受験のためのクラスを東京、大阪共通で設置するにあたり、共有可能なことは非常に多くあり、それを他校にはない強みとして確立していくよう計画していく。

(d) 教育成果の外部への発信の推進

広報職員と連携して、ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じ、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事・クラブ活動の様子等、日頃の教育成果を、引き続き積極的に外部に発信し、反応を分析し、改善につなげる。

卒業成果・制作発表会における表彰作品を優秀作品集としてパンフレットにした

が、学生の反応や、広報効果を検証し、今年度も継続していく。

学生・留学生のアイデア、デザイン成果については、学生個人の著作権を守りつつ、広く社会に役立てることができるよう、製品化や特許や意匠登録の権利取得について引き続き模索していく。

(イ) 建築系

(a) 目標

◇『厳しい実務教育』、『人間涵養教育』

(b) 基本方針

- (i) 各学科の特色化の推進
- (ii) BIM教育及び環境教育の充実
- (iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
- (iv) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し
- (v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
- (vi) プレゼンテーション能力の向上
- (vii) 各種コンペティション参加の促進
- (viii) 資格取得の促進

(c) 具体的方策

(i) 各学科の特色化の推進

◇研究科

二級建築士建築士試験の合格率の向上及び後期の学習内容の充実を図る。

一級建築士を同時に受験する学生への支援として、該当者が4名程度までは以下の体制を整える。

[学科] 日建学院アカデミックパック一級用教材（自己負担）を自習させ、質問時間に質問対応

[製図] 全10回弱点強化講習会（別料金）を開講

◇建築学科

建築設計演習Ⅰ（1年次必修）において、カリキュラムの変更が功を奏し、成果をあげることができた。2年次の課題へと繋げていく。

◇住宅デザイン科

卒業制作において、戸建て住宅の設計、街づくり、古民家などの分野が毎年多く出てくるが、専門の講師を招聘し、コースとして充実させる方向も視野にいて、今後の展望を検討する。学科の特色を明確化する。

また、CADソフトとして、アーキトレンドを導入したことによって期待できる効果はCAD操作に対する障害を取り除き、本題である住宅デザインを深く考えることであったが、BIMでない点、自由度において使いにくい面がある点などを踏まえ、Archicadへの再変更となった。

◇インテリアデザイン科

引き続き、デザイン教育の充実を図り、学生の習熟度向上によって、デザイナーとして独立、自営を目指す経営戦略を身につける教育を強化する。

また、1年次に資格、2年次にコンペティション、3年次に建築士という道筋を理想とし、確かな技術・知識の習得による、建築士受験、研究科入学への意欲の醸成をも促していく。

(ii) BIM教育及び環境教育の充実

①BIM関連ソフト（専門科目・演習科目）を使用する授業の増加を図る。

②環境問題の理解とSDGsの概念の浸透を意識する。

(iii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上

①具体的な目標をシラバスに明記し、担任、担当講師は初回授業にて、授業のイントロダクションを十分に行う。

(iv) 一級建築士受験を見据えた研究科のカリキュラムの見直しの検討

①一級建築士受験を意識させる機会を増やし、一級の内容にも触れるようにする。

②研究科後期授業をさらに充実させる。

(v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減

学生本人が、自己管理しやすい工夫と指導に努める。

(vii) プレゼンテーション能力の向上

日頃の作品発表においては、伝えたいことを時間内で魅力的に伝えるための作品情報の編集能力を養うための仕組みを構築する。

(viii) 各種コンペティション参加の促進

同時期に実施されている授業との連携等も考慮し、学生の意欲の継続を支援する必要がある。無理なスケジュール等を見直し、環境にも工夫することで、結果にちなげ、より一層のレベル向上を図る。

(IX) 資格取得の促進

自分にとって必要で、頑張れば取得できる資格に自主的に挑戦させるためのモチベーションや意識を高める工夫をする。また、スケジュールを自己管理することも指導する。

(ウ) 国際系

(a) 目標

◇学生一人ひとりが希望する進路を見つけ、実現できる力を身につける。

(b) 基本方針

- (i) 特色のあるカリキュラム編成
- (ii) 授業の理解度・習熟度の向上
- (iii) 地域活動及び異文化交流・社会貢献の推進
- (iv) 課外授業の充実による他校との差別化
- (v) 生活指導の徹底

(c) 具体的方策

(i) 特色あるカリキュラムの編成及び授業理解度・習熟度の向上

◇国際コミュニケーション科

- ①目標到達に向けた個別指導
- ②情報提供（大学、専門学校、就職 [技人国] [特定技能]）
- ③進学後に求められるプレゼンテーション力

◇日越通訳・翻訳科

- ①通訳者・翻訳者に求められる語学の運用力、理解力の向上、及び日本語の上級レベル（N1）への到達
- ②ビジネスマナー、パソコンスキル、キャリアアップ教育の促進
- ③就職後に求められるチームワーク力、マネジメント力の育成
- ④ボーダレス社会で活躍できるヒューマン・コミュニケーション能力に優れた人材の育成

◇ブリッジ（システム）エンジニア科

- ①専門科目の習熟度を高めるための専門用語の日本語フォローアップ
- ②建築・機械・ITの3分野の学習による幅広い業種に対応できる基礎知識の修得
- ③母国と日本の架け橋となるための語学力、技術力、知識力、コミュニケーション力の養成

(ii) 地域活動・社会貢献・課外活動の充実

アルバイトと学校の往復だけになりがちな留学生にとって、クラスメイトとの研修や校外活動は団体行動を学ぶ上でよい機会となり、また、よい思い出づくりの場とな

る。クラス内の団結が高まるという利点や教員との距離が近くなることで、進学や就職指導への効果を上げる。

緑地公園の清掃という社会貢献活動をとおして、地域との連携や学生自身の道徳心を育む。

(iii) 在籍管理とマナーの育成

日頃から一人ひとりの行動に留意し、出席率の95%維持に努めるとともに、学習態度や生活態度の変化を見逃さないよう、職員全員が情報共有し、早期発見、早期指導を行う。また、社会に出た時に恥ずかしくないよう、日頃からマナーを意識させ、挨拶、服装、言葉遣い、整理・整頓等に留意する。

(3) 学生・留学生指導

(ア) 個別指導

- (a) 日頃から学生をよく観察し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、発見した場合は、担任だけでなく、複数の職員での支援体制を構築し、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から学生の就学状況を保護者と共有できるよう、保護者とのコミュニケーションスキルを高める。
- (c) 教育懇談会等をとおして、家庭の実態を把握し、保護者との信頼関係を築く。
- (d) 学生生活や留学生生活をとおして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせるにあたり、職員、学校関係者、学校の学生対応についても、常に、良心的で、誠実を心がけ、学生・留学生に見られていることを忘れないようにする。

(イ) 集団指導

- (a) 学校内での学習や生活だけでなく、地域活動等にも積極的に参加を促し、立場や背景の異なる他者との良好な関係を築き、秩序ある行動の重要性を指導する。
- (b) さまざまな学校行事や、グループ課題において、自分の考えや意見を伝えながら、他者と協力して、一人ではできないことをチームで達成する経験から、対話の重要性や組織の一員としての動きを理解させる。
- (c) A S Hや入学時のガイダンス等では、異なる背景や文化への理解を促進させるように留意する。また、A S H、課外学習の時間は、2年間を通して、職業観だけでなく、視野が広がるような取り組みを企画し、実施する。
- (d) 引き続き、未成年者の喫煙指導は徹底し、公共のマナーに対する意識の向上を図

る。

(ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。
- (c) 留学生に対し、日本国内の交通マナーに関する理解の徹底を図る。

(エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書のほか、幅広い教養を身に付けるための一般図書を充実させる。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を調査し、ニーズの高い図書を拡充する。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、学習しやすい場となるような雰囲気にする。
- (d) 書籍だけでなくWEB等を活用し、常に新しい情報等が閲覧できるようにする。

(4) 進路指導の重点

(ア) 重点事項

キャリア教育の実践等をとおして、すべての学生・留学生が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職活動の時期を逸することなく、早期に就職できるようにする。

このほか、学生・留学生の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

また、今後の新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

(イ) 建築系

(a) 目標

学生・留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

(b) 基本方針

- (i) 自己実現に向けた自主性の育成
- (ii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進（学級担任との連携強化）
- (iii) 就職活動の早期化の促進
- (iv) 就職に繋がる効果的なインターンシップの推奨

(v) 研究科への内部進学への促進

(c) 具体的方策

(i) 学級担任及び職員間の情報共有の徹底

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、学生・留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。

学級担任と連携し、学生・留学生の職業観・勤労観を育成するとともに、自己分析や企業研究をはじめ、学校求人や自己開拓での就職活動の方法・手段を計画的に指導する。

また、履歴書の作成方法や採用選考等の指導、進路相談等を個別に行い、就職内定へ向けたサポートをきめ細かく行う。

(ii) 就職活動の早期化に即した計画的な進路ガイダンスの実践（進路指導の充実化）

求人の公開の早期化を図るため、求人依頼を1月に行うとともに、キャリアマップで求人受付を随時行い、公開できるようにする。進路ガイダンスの充実化を図り、就職支援サイト主催の就職セミナーへの参加方法やイベントの告知をきめ細かく行い、就職活動に対する意識の強化と早期化を促すようにする。

また、希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生・留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進させるため、インターンシップを推奨する。

(iii) インターネットの活用の推進

学生一人ひとりが自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エントリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアタス等）の活用について、進路ガイダンス等をとおして指導する。

(iv) 合同企業説明会の開催（主催：本校）

就職活動の一環として、5月に本校主催の合同企業説明会を開催する。採用実績があり、インターンシップや求人を受け付けている建築、住宅、インテリア、B I M等の分野の企業を招聘し、人事担当者や卒業生からの自社の業務内容や雇用条件等の説明を踏まえ、自らが望む企業への採用や業務への従事等を促進させるようにする。

また、就職活動の時期を逸することなく、就職先を決定することができるようにするため、1学年の3月に本校とキャリアマップ合同による合同企業説明会をオンラインで開催を検討する。

(v) 研究科への内部進学促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、教員室と連携し、研究科への内部進学を促進する。

(ウ) 国際系

(a) 目標

留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する力を育成する。

(b) 基本方針

(i) 手厚い進路指導を行い、学生を希望進路へと導く

(ii) 希望進路の早期把握と実現に向けた計画的な進路指導を実施

(c) 具体的方策

(i) 手厚い進路指導による学生の高い満足度と信頼度の獲得

留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たすことができるよう学生の職業観・勤労観・将来像を育成するとともに、大学や日本企業が留学生に求める人物像を分析し、学校選び、就職活動の方法・手段を計画的かつきめ細かくアドバイスし、希望進路へと導く。

(ii) 希望進路の把握と実現に向けた活動の強化

定期的な進路調査・面談を実施することで、学生と職員の意志疎通をしっかりと図り、受験や入社試験の準備を万全にし、本番に自信をもって臨めるよう指導する。

3 学級担任

課程	系	区別	学 科 名	1 年	2 年
工業専門課程	建築系	昼間	研究科	戸澤まり子	—
			建築学科	篠崎 潤一	平上 秀明
			住宅デザイン科	平上 秀明	吉田 知恵 (前期) 豊田 昌代 (後期)
			インテリアデザイン科	太田 育子	戸澤まり子
文化・教養専門課程	国際系	昼間	ブリッジ (システム) エンジニア科	杉浦英里奈	大串いづみ
		昼間	国際コミュニケーション科	金村 優美	—
			日越通訳・翻訳科	—	大串いづみ

4 教務室分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
事務部門	総務・労務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子
	経理	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、嶋田 享子
	管財	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大
教育部門	教育	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 野村 裕子、北野 裕子
	教務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子、嶋田 享子
	生涯学習	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、尾杉 貴大、 山下 幸代、野村 裕子

5 建築系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、村上 千里、藤井 紫真
	出願	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、村上 千里、藤井 紫真
	受付	中島 征治、諸岡 邦行、清本 真沙実、村上 千里、藤井 紫真
	進路指導	中島 征治、河野 美晴、溝口 有里、岡田 ひろみ
	図書	中島 征治、河野 美晴、溝口 有里、岡田 ひろみ

6 国際系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	大串 いづみ、杉浦 英里奈、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子
	出願	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里
	受付	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子
	進路指導	大串 いづみ、杉浦 英里奈、金村 優美、栗本 真里、十場 幸子
	図書	金村 優美、十場 幸子

7 行事予定表

◇前期

R 6 / 4 月		R 6 / 5 月		R 6 / 6 月		R 6 / 7 月		R 6 / 8 月		R 6 / 9 月		
1 月	職員全体会議	1 水		1 土	一般 休暇日	A O 入試エントリー開始 建築系オープンキャンパス (6)	1 月		1 木		1 日	建築系オープンキャンパス (15) A O 入試選考 (3)
2 火		2 木		2 日			2 火		2 金	学校関係者評価委員会	2 月	夏季休暇後授業開始 (研究科以外) A O 入試入学願書受付開始
3 水		3 金	憲法 記念日	3 月			3 水		3 土	一般 休暇日	3 火	
4 木		4 土	みどりの 日	4 火			4 木		4 日	建築系オープンキャンパス (13) 国際系オープンキャンパス (5) A O 入試選考 (2)	4 水	
5 金	教職員会議	5 日	こどもの 日	5 水		国際系前期スポーツDAY (全学科学年)	5 金	国際系 (全学科学年) 夏季文化体験	5 月		5 木	
6 土	一般 休暇日	6 月	振替 休日	6 木			6 土	一般 休暇日	6 火		6 金	
7 日		7 火		7 金			7 日	A O 入試説明会 (3) 二級建築士 (学科の試験) 日本語能力試験 (第1回)	7 水		7 土	一般 休暇日
8 月	受験ガイダンス (研究科)	8 水		8 土		建築系オープンキャンパス (7) 国際系オープンキャンパス (2)	8 月		8 木		8 日	A O 入試説明会 (5) 国際系オープンキャンパス (9)
9 火	入学式	9 木		9 日			9 火		9 金	夏季休暇前授業終了 (研究科)	9 月	前期追試験受験者発表
10 水	ガイダンス (研究科・建築系2年・国際 系2年) 学生・職員健康診断	10 金		10 月			10 水		10 土	一般 休暇日	10 火	前期追試験開始
11 木	ガイダンス (建築系1年・国際系1年)	11 土	一般 休暇日	11 火		建築系オープンキャンパス (4)	11 木		11 日	山の日	11 水	↓
12 金	前期授業開始	12 日		12 水			12 金		12 月	振替 休日	12 木	↓
13 土	一般 休暇日	13 月		13 木			13 土	一般 休暇日	13 火	一般 休暇日	13 金	前期追試験終了
14 日		14 火		14 金			14 日	建築系オープンキャンパス (11)	14 水	一般 休暇日	14 土	一般 休暇日
15 月		15 水		15 土	一般 休暇日		15 月	海の日	15 木		15 日	二級建築士 (設計製図の試験)
16 火		16 木		16 日		建築系オープンキャンパス (8) 日本留学試験 (第1回)	16 火		16 金	東京・大阪合同模擬授業 教職員研修発表会	16 月	敬老 の日
17 水		17 金		17 月			17 水		17 土	一般 休暇日	17 火	
18 木		18 土	一般 休暇日	18 火		学校説明会 in 軽井沢研修所 (1)	18 木		18 日		18 水	
19 金		19 日		19 水			19 金		19 月		19 木	夏季休暇後授業開始 (研究科)
20 土	一般 休暇日	20 月		20 木			20 土	一般 休暇日	20 火	国際系オープンキャンパス (6)、(7)	20 金	A O 入試書類審査 (1)
21 日	建築系オープンキャンパス (2)	21 火		21 金			21 日		21 水		21 土	一般 休暇日
22 月		22 水		22 土	一般 休暇日		22 月		22 木		22 日	秋分 の日
23 火		23 木		23 日		建築系オープンキャンパス (9) A O 入試選考 (1)	23 火		23 金	職員研修発表会	23 月	振替 休日
24 水	国際系課外研修 (全学科学年) 新入生歓迎遠足	24 金		24 月			24 水		24 土	一般 休暇日	24 火	前期追試験結果発表
25 木		25 土		25 火		建築系オープンキャンパス (5) 国際系オープンキャンパス (1)	25 木	前期定期試験開始	25 日	建築系オープンキャンパス (14)	25 水	前期成績会議
26 金		26 日		26 水			26 金	↓	26 月		26 木	
27 土	一般 休暇日	27 月		27 木			27 土	建築系オープンキャンパス (12) 国際系オープンキャンパス (4)	27 火		27 金	
28 日		28 火		28 金			28 日		28 水		28 土	一般 休暇日
29 月	昭和 の日	29 水		29 土	一般 休暇日		29 月	↓	29 木		29 日	建築系オープンキャンパス (17) 国際系オープンキャンパス (10) A O 入試選考 (4)
30 火	授業日 (研究科) 建築系オープンキャンパス (3)	30 木		30 日		国際系 (全学科学年) 緑地公園清掃ボランティア	30 火	前期定期試験終了	30 金		30 月	前期授業終了 建築施工実習開始 (建築学科、住宅デ ザイン科1年) (10/4迄)
		31 金					31 水	夏季休暇前授業終了 (研究科以外)	31 土	一般 休暇日		国際系オープンキャンパス (8)

※L・・研究科 A・・建築学科 U・・住宅デザイン科 I・・インテリアデザイン科 X・・国際コミュニケーション科 V・・日越通訳・翻訳科 Z・・ブリッジ (システム) エンジニア科

7 行事予定表

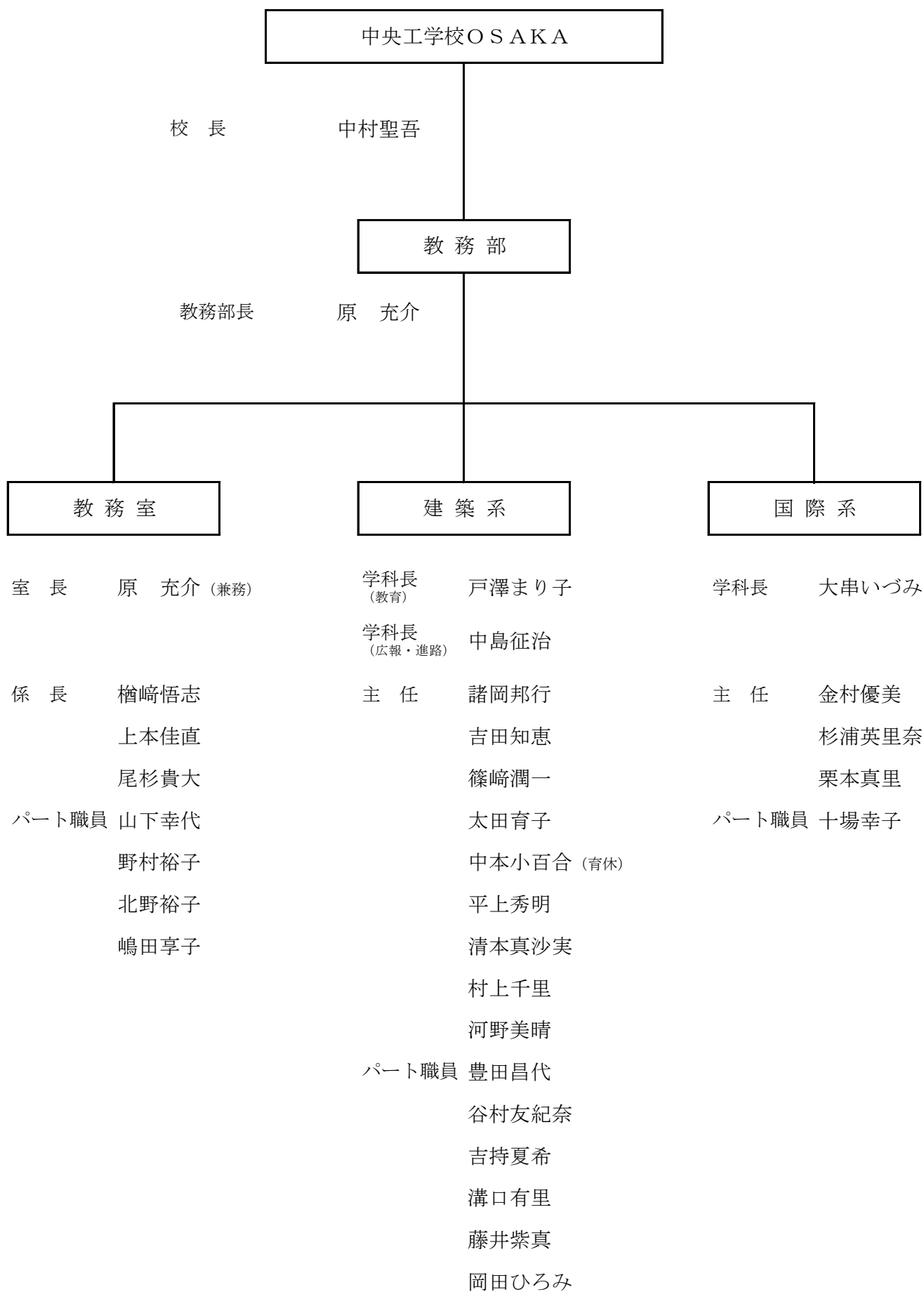
◇後期

R6 / 10月			R6 / 11月			R6 / 12月			R7 / 1月			R7 / 2月			R7 / 3月					
1	火	後期授業開始(研究科以外) 建築系・国際系入学願書受付開始 建築施工実習(建築学科、住宅デザイン科1年)	1	金	後期授業開始(研究科) 国際系課外研修(1年)(11/1迄)	1	日	日本語能力試験(第2回)	1	水	元日 年末年始休暇(1/5迄)	1	土	一般 休暇日	1	土	一般 休暇日			
2	水	↓	2	土	一般 休暇日	2	月		2	木	一般 休暇日	2	日		2	日				
3	木	↓	3	日	文化 の日	3	火		3	金	一般 休暇日	3	月		3	月	卒業認定試験(3/3迄)			
4	金	建築施工実習終了 (建築学科、住宅デザイン科1年) A〇入試書類審査(2)	4	月	振替 休日	4	水	国際系後期スポーツDAY (全学科学年)	4	土	一般 休暇日	4	火		4	火				
5	土	一般 休暇日	5	火	国内建築研修開始(研究科) (11/8迄)	5	木		5	日	↓	5	水	後期追試験受験者発表	5	水	第2次卒業・進級成績審議会			
6	日	A〇入試説明会(6) 国際系オープンキャンパス(11)	6	水	↓	6	金		6	月	仕事始め	6	木	後期追試験開始	6	木	卒業決定発表 進級保留者発表			
7	月		7	木	↓	7	土	一般 休暇日	7	火		7	金	↓	7	金				
8	火		8	金	国内建築研修終了(研究科)	8	日	建築系オープンキャンパス(22) 国際系オープンキャンパス(15)	8	水	冬季休暇後授業開始	8	土	一般 休暇日	8	土	一般 休暇日			
9	水		9	土	建築系オープンキャンパス(20) 国際系オープンキャンパス(14) A〇入試選考(5)、A〇入試書類審査(4) 国際系一般入試(3)	9	月		9	木		9	日		9	日	建築系オープンキャンパス(27) 建築系一般・推薦入試(6)			
10	木		10	日	日本留学試験(第2回)	10	火		10	金		10	月	↓ 国際系卒業成果・制作発表会 [午前] 国際系卒業遠足[午後]	10	月	進級認定試験(3/11迄)			
11	金		11	月		11	水		11	土	一般 休暇日	11	火	建国記念の日 建築系オープンキャンパス(26) 建築系一般・推薦入試(5)	11	火	↓			
12	土	建築系オープンキャンパス(18) 国際系オープンキャンパス(12) 国際系一般入試(1)	12	火		12	木		12	日		12	水	後期追試験終了	12	水				
13	日		13	水	国際系課外研修(2年)(11/15迄)	13	金		13	月	成人 の日	13	木	A〇入学前教育	13	木				
14	月	スポーツの日	14	木	↓	14	土	一般 休暇日	14	火	国際系一般入試(6)	14	金	後期追試験結果発表 建築系卒業成果・制作発表会準備	14	金	第2次進級成績審議会			
15	火	国際系指定校推薦入試	15	金	↓	15	日		15	水		15	土	一般 休暇日	15	土	一般 休暇日			
16	水		16	土	一般 休暇日	16	月	国際系一般入試(5)	16	木		16	日		16	日				
17	木		17	日		17	火		17	金		17	月	建築系卒業成果・制作発表会(2/18迄)	17	月				
18	金		18	月		18	水	国際系冬季文化体験(全学科学年)	18	土	一般 休暇日	18	火	建築系オープンキャンパス(24) 建築系一般・推薦入試(4)	18	火	↓	18	火	卒業証書授与式
19	土	一般 休暇日	19	火		19	木		19	日		19	水	卒業成果・制作発表会撤収 卒業学年授業終了	19	水	進級発表			
20	日	建築系オープンキャンパス(19) 国際系オープンキャンパス(13) 建築系一般・推薦入試(1)、指定校推薦入試、 A〇入試書類審査(3)	20	水		20	金		20	月		20	木	第2回教育課程編成委員会	20	木	春分 の日	20	木	建築系オープンキャンパス(28)
21	月		21	木		21	土	一般 休暇日	21	火		21	金	進級学年授業終了	21	金				
22	火		22	金	建築系スポーツ大会	22	日	建築系オープンキャンパス(23) A〇入試書類審査(5) 建築系一般・推薦入試(3)	22	水		22	土	一般 休暇日	22	土	一般 休暇日			
23	水		23	土	勤労感謝の日	23	月		23	木	後期定期試験開始	23	日	天皇 誕生日	23	日		23	日	建築系オープンキャンパス(29)
24	木	秋の文化イベント準備日(建築系) (10/25迄)	24	日	建築系オープンキャンパス(21) 建築系一般・推薦入試(2)	24	火	冬季休暇前授業終了	24	金	↓	24	月	振替 休日	24	月		24	月	
25	金	↓	25	月	国際系一般入試(4)	25	水	仕事納め	25	土	一般 休暇日	25	火	卒業成績審議会	25	火		25	火	
26	土	秋の文化イベント(建築系) (10/27迄) イケフェス大阪公開(10/27迄)	26	火	国際系課外研修(1年)紅葉狩り	26	木	年末年始休暇(1/5迄)	26	日		26	水	建築系オープンキャンパス(25)	26	水	卒業保留者発表	26	水	
27	日	↓ 国際系自宅学習日	27	水		27	金	↓	27	月	↓	27	木		27	木	卒業認定者成績送付	27	木	
28	月	秋の文化イベント撤収日(建築系) 第1回教育課程編成委員会 国際系一般入試(2)	28	木		28	土	一般 休暇日	28	火	↓	28	金	後期定期試験終了	28	金	卒業認定試験(3/3迄)	28	金	
29	火		29	金		29	日	↓	29	水		29	土	一般 休暇日	29	土	一般 休暇日			
30	水		30	土	一般 休暇日	30	月	一般 休暇日	30	木	↓	30	水		30	日				
31	木	国際系課外研修(1年)(11/1迄)				31	火	一般 休暇日	31	金	↓				31	月				

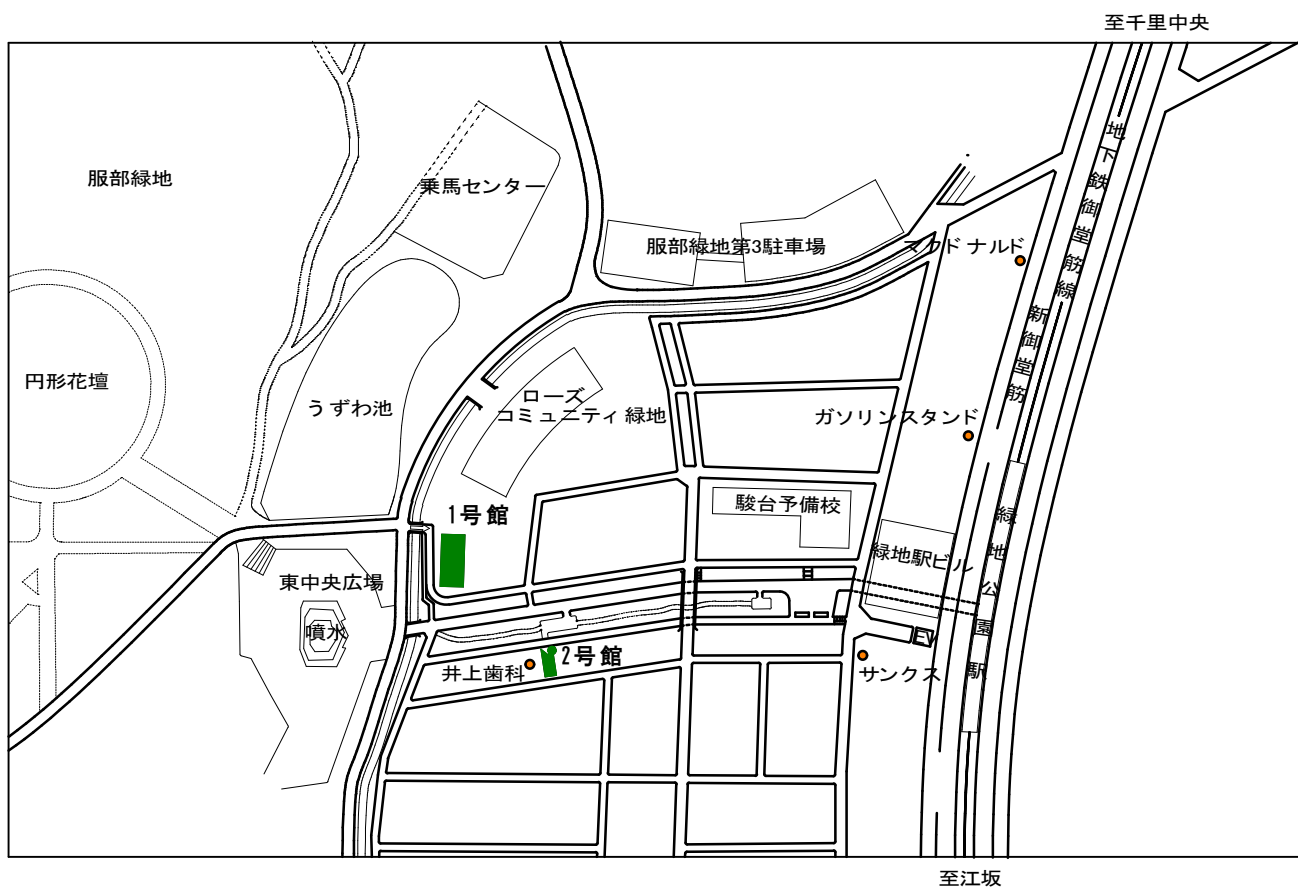
※L・・研究科 A・・建築学科 U・・住宅デザイン科 I・・インテリアデザイン科 X・・国際コミュニケーション科 V・・日越通訳・翻訳科 Z・・ブリッジ(システム)エンジニア科

参 考 资 料

8 職員組織表



9 付近見取図

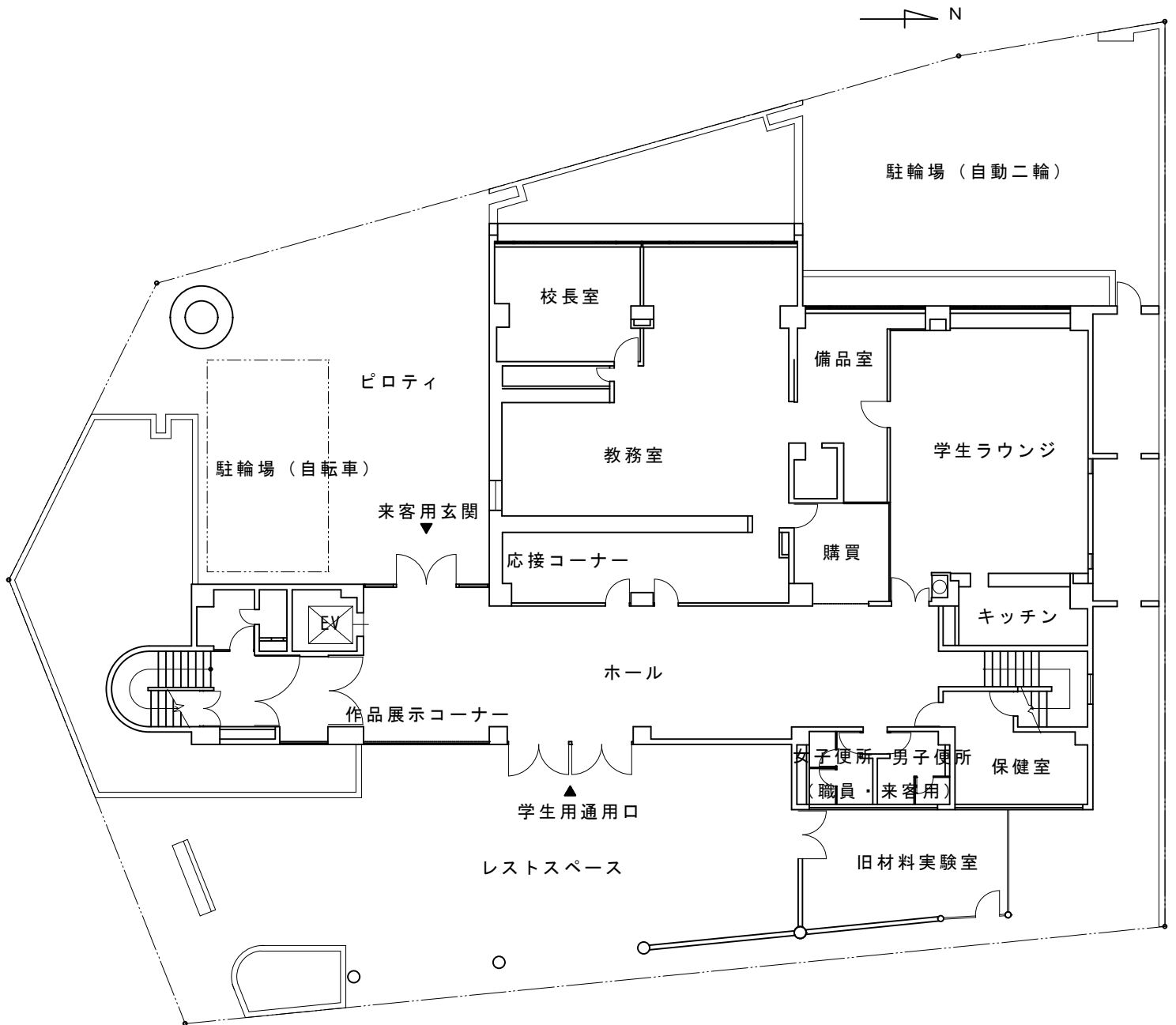


学校法人 中央工学校
中央工学校 O S A K A

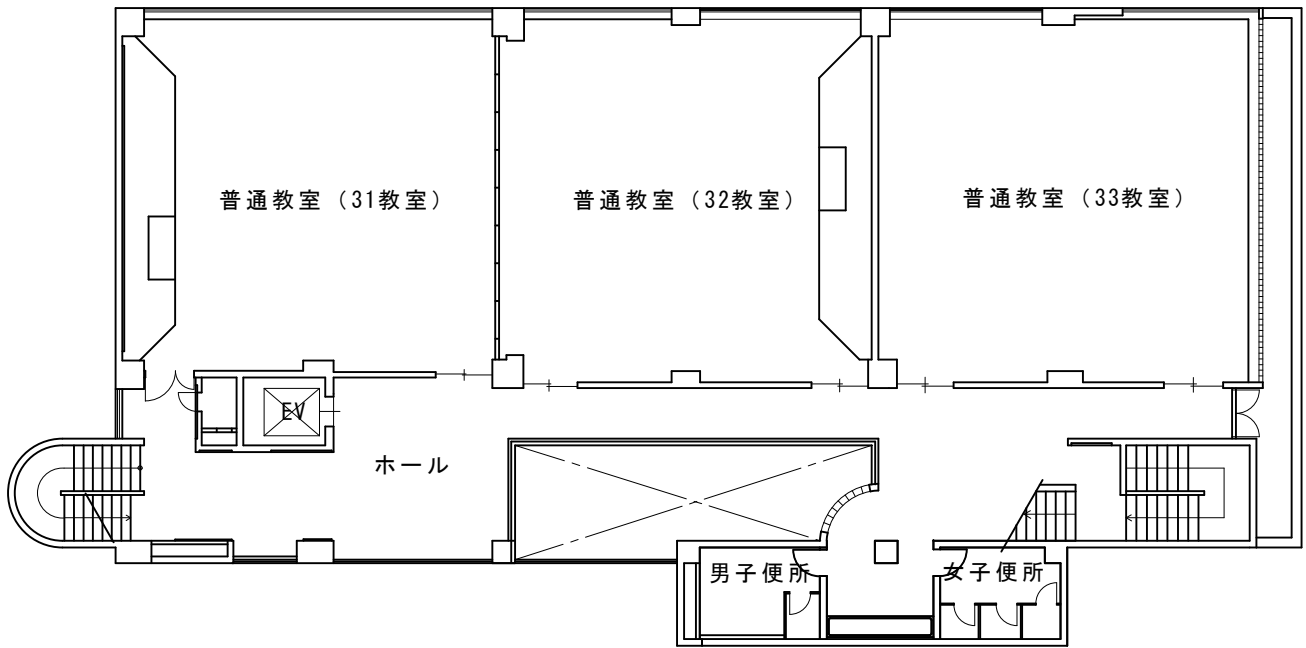
〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-4-3 TEL06-6866-0800 FAX06-6866-1616

10 校舎配置図

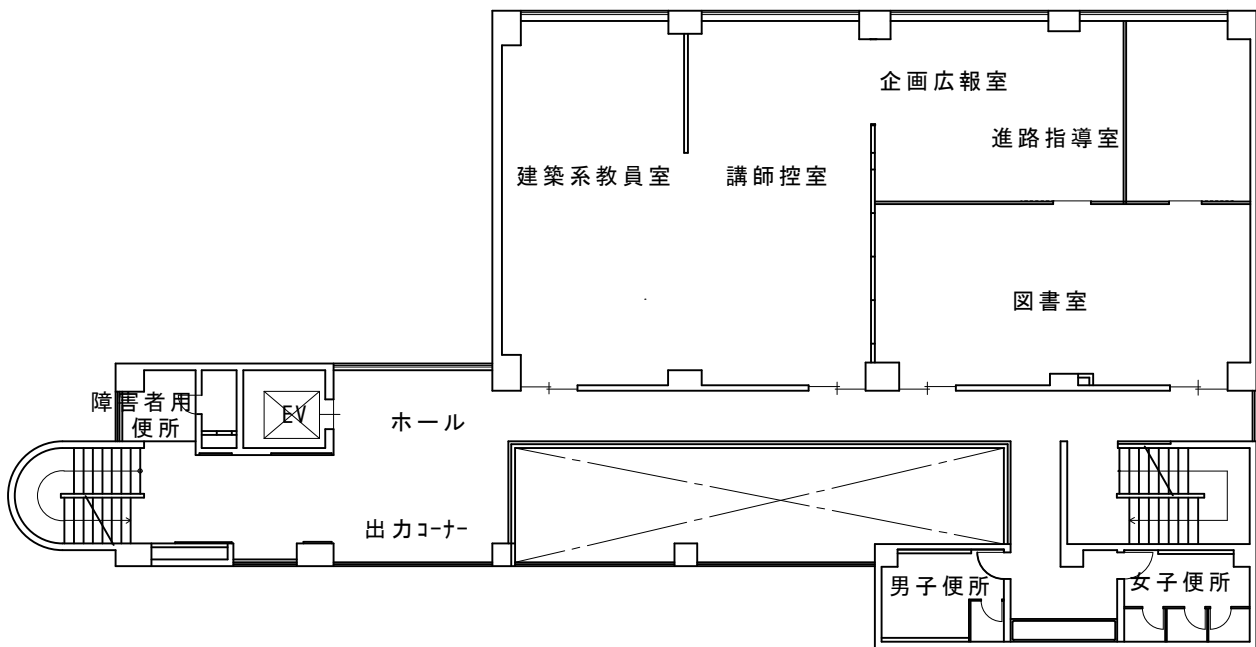
○ 1号館



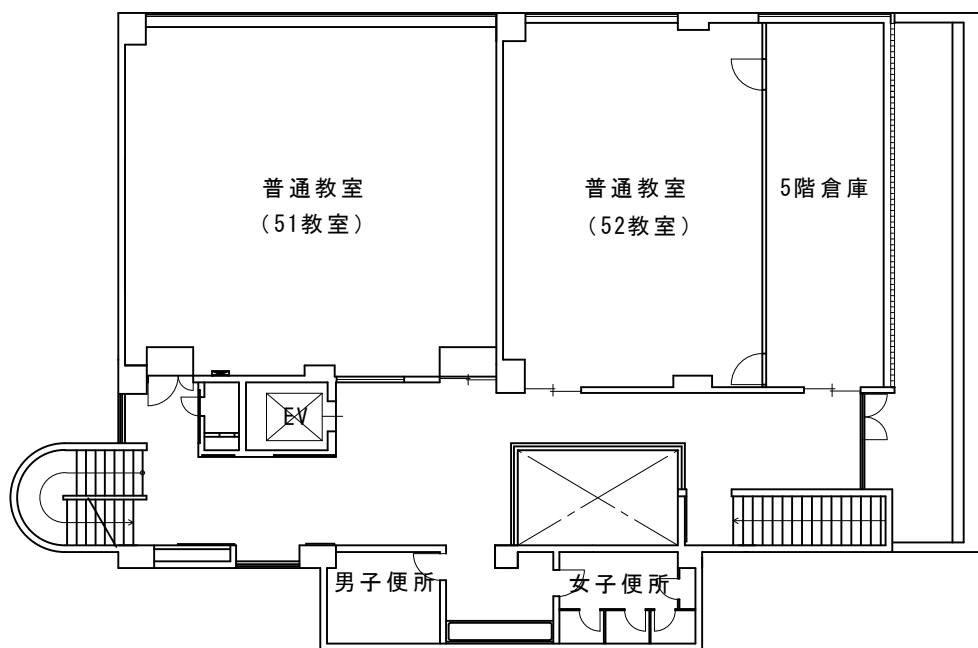
敷地配置図・1階平面図



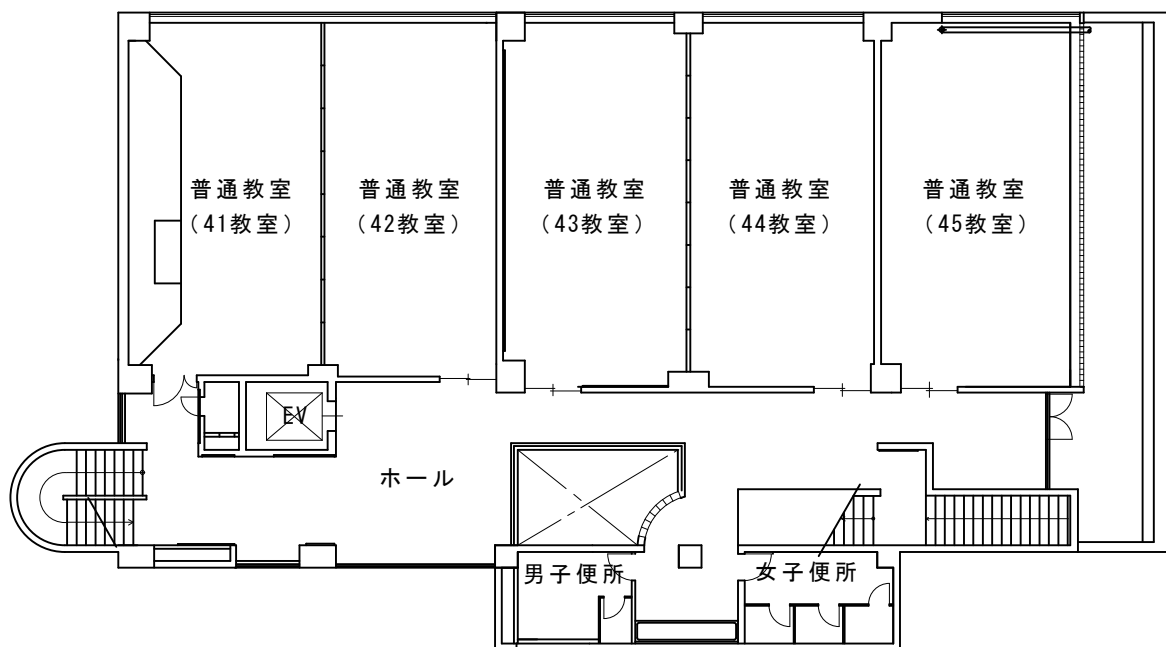
3階平面図



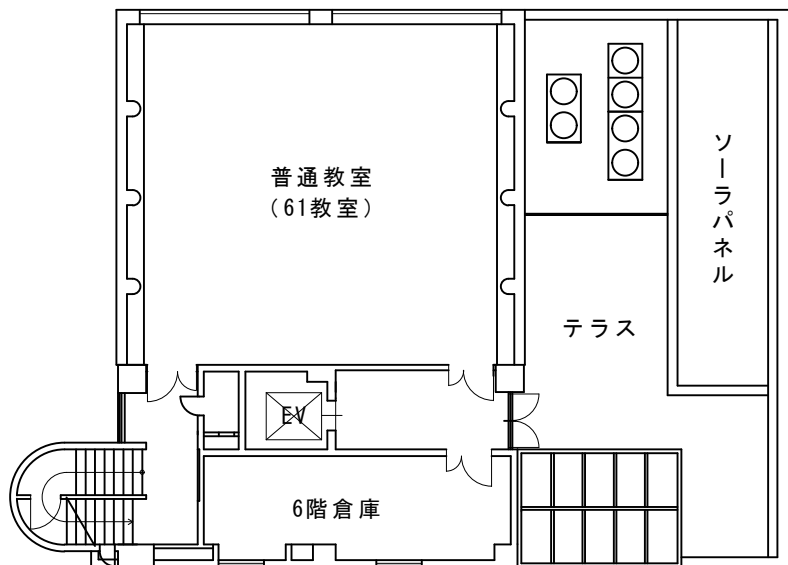
2階平面図



5 階平面図

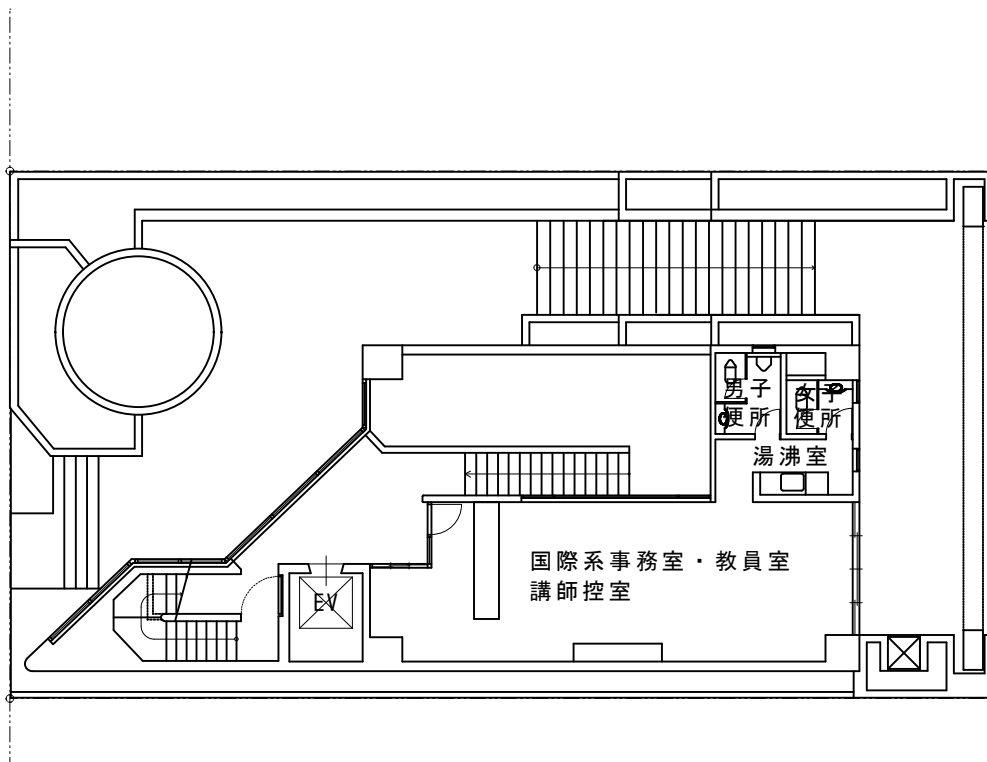


4 階平面図

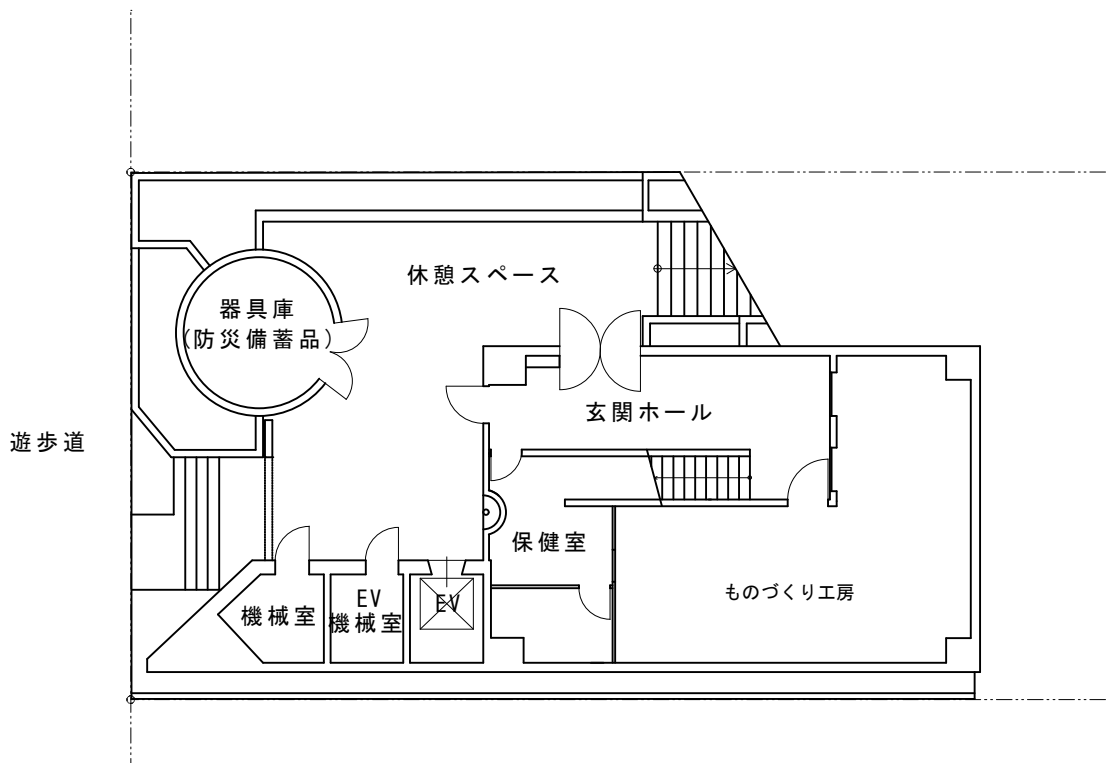


6階平面図

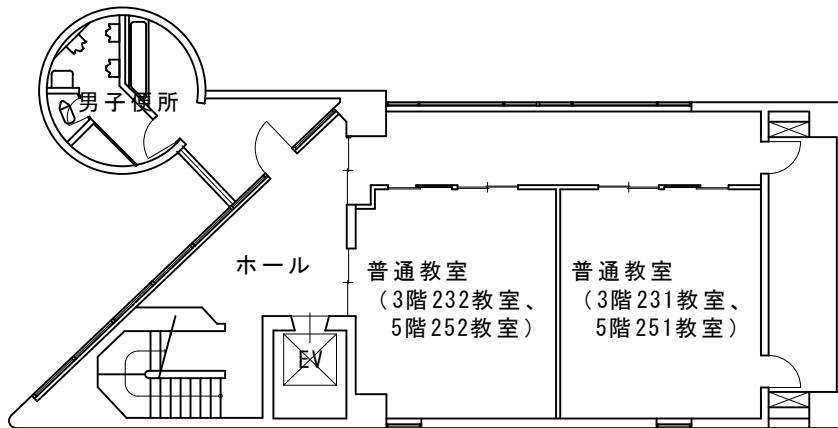
○ 2号館



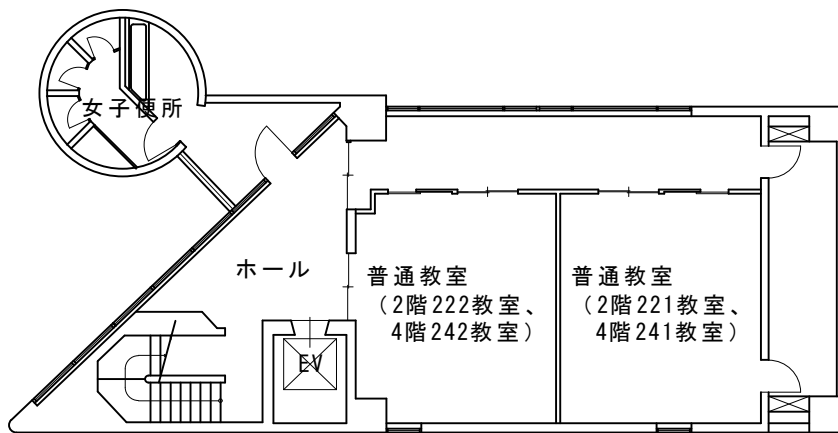
1 階平面図



敷地配置図・地下1階平面図



3. 5階平面図



2. 4階平面図